

気候変動対策の一層の推進を！

立川市の公共施設における再エネ使用は拡大の方向性へ！

立川市ではこれまで、公共施設における再エネ導入は「技術革新を待つ」とのことで、一向に進みませんでした。新市政となり、今後は積極的な導入に踏み切るとのことです。

また、電力調達も従前はほとんど価格のみの入札でしたが、今後は再エネ比率などを考慮し、再エネを多く導入している電力会社からの電力調達も検討するとのことでした。

立川市全体のCO2削減に向けてはこれからの課題！

公共施設における再エネ導入とそれに伴うCO2削減は進む一方、私たち市民を含めた市全体の削減計画はこれからの課題となっています。現在、計画は策定中で、内容に注目しています。

コロナ禍を経てもCO2排出量はほとんど減っていません。一刻の猶予もないと危機感を抱きながら今後も早急な対応を訴えていきます。

気候変動のせいで世界中の町や村で異変が起きているようだ…

生ごみたい肥化事業が拡充！

今年度からは試験運用が開始、効果に期待！

大山団地で実施している生ごみをたい肥にする事業を市内全域に拡充するよう、議員になって以来ずっと求めてきました。今年度からは市内で有志の住民を募集して、試験的に拡大しま

生ごみがたい肥化されて、植物が元気に育っている

大します。上手くいけば、市内全域に拡充することもできます。この事業が拡充し、誰もが生ごみをリサイクルできるように願っています。効果や事業の拡充の方向性に大注目です。

マイクロプラスチック対策の推進を！

多摩川の魚からもプラスチックが検出！

環境NPO団体が多摩川の流域で魚を調査したところ、日野橋や立飛橋付近の全ての魚からプラスチックが検出されたとのこと。

私たちは1週間にクレジットカード1枚分のプラスチックを摂取していると言われており、私たちの健康に影響がないか非常に心配です。

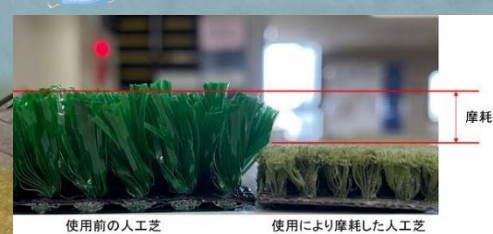
市でも踏み込んだ取り組みを！

多摩市ではテニスコートの摩耗した人工芝に由来するマイクロプラスチックの流出抑制対策をすることでした。

これまでも河川の清掃キャンペーンの拡大などを求めてきました。立川でもより踏み込んだ対応ができないか、求めていきたいと思います。



↑多摩川クリーンアップキャンペーン
プラスチック由来のゴミがたくさん



↑摩耗する人工芝
(多摩市HPより)

マイクロプラスチックによる川の汚染でリガードマンたちは困っている

より良い就労環境を整えるべき！

フルタイム正規かパートタイム非正規の働き方！

現代社会の多くの仕事は、コミュニケーションや事務作業を始め、様々なスキルが求められます。しかし、フルタイムでの就労が困難であったり、スキル面での課題などで就労に挫折してしまう人も少なくありません。

このまちは働き方が柔軟で専門職にも好待遇で繁栄している。

就労支援の現場でもこうした課題を捉えているようで就労時間や業務を細分化したり、一定の配慮をしながらの就労の在り方(ユニバーサル就労)の必要性も今後の課題として認識しているとのことでした。柔軟で多様な働き方ができる立川を今後も目指していきます。

専門職の待遇の向上を！

立川のみならず、全国の自治体での問題ですが、司書や、学芸員、保健福祉士など、市で採用している多くの専門職は会計年度任用職員(非正規)で採用しています。しかし、本来であれば、他の人にはない高度な専門性に対しては、相応の対価や身分保障が必要です。長期的に

見れば、こうした専門職の非正規化によって、将来的に専門職を目指そうという人も少なくなってしまいます。市としては他自治体の動向や働き方の面での課題があるということでしたが、今後も専門職の人たちが相応の待遇で働いていけるよう、対応を求めてまいります。

より親しみやすい図書館へ！

図書館を居場所と思える場所に！

瑞穂町図書館は2022年3月にリニューアルオープン。コンセプトは「居場所と感じられるような図書館」。リニューアルするからには、今まで図書館に来なかった人にも来てもらえるようにしたいとの思いで市民も巻き込んで設計したとのこと。くつろげるスペースが多くに設けられたり、飲食もOK、パンなどが売ってる、など様々な

くつろげるスペースや飲食OKなど、居場所と思える図書館だ。

工夫がされていました。私語や飲食が禁止など、重々しい雰囲気はなく、気軽に寄れる場所になってます。

立川の中央図書館はスペースや間取りなどの制約もありますが、ルールや運用面でも改善し、より多くの市民に親んでもらえる図書館の運営を求めました。

能登半島も支援！市内の妊婦さんたちにも配達！図書館の可能性は広い！

図書館では、能登半島地震で大きな被害を受けた輪島市の小中学生(約1250名)たちに約950冊分の電子書籍を開放しています。たまたま立川市と輪島市で導入している電子図書システムが同じもので、輪島市の大きな事務負担もかけさせずに実現した支援で、大変感謝されています。

また、今年度からは障害を抱えた人たちに対する本貸出宅配サービスに加え、妊婦さんに対しても始まります。中古書籍が安価で手軽に手に入る時代だからこそ、今の図書館に期待できる新たな役割や機能について、今後も考えていきます。

山本ようすけ (立川市議会議員)

- 1990年 11月6日 武蔵村山生まれ、稲城育ち
- 2009年 立川高校卒業
- 2014年 一橋大学 社会学部 卒業
外資系コンサルティング会社に就職
- 2018年 立川市議会議員選挙に立候補、初当選(1,288票)
- 2022年 立川市議会議員選挙、二期目の当選 (2,082票)
高松町在住

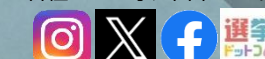
【議員以外の所属等】

NPO 法人さんきゅうハウス理事、緑の党グリーンズジャパン 気候危機・自治体議員の会(呼びかけ人)、紫芳会(立川高校同窓会)会員

【好きなこと】

歴史、博物館や美術館に行く、登山、街歩きゲーム、ドラクエならIVとV

各種SNS等、「山本ようすけ」で検索！



Library



瑞穂町図書館



人生初の東京ビッグサイト
友人に誘われボードゲーム
の祭典「ゲームマーケット」へ



プレーパークに参加@高砂公園



鈴木都議と立川高校
定時制の見学